

# お足



最近、私の近所で交通事故が多くありました。春の「晴天あっぱれ！」のような日と、満月と新月のそれぞれ前後1日、つまりその3日間が重なった日には特に大きな事故が起きやすいと聞いたことがあります。人の気持ちがあつても「ハイ」になりやすいからだそうです。それを聞いて以来、月の満ち欠けのカレンダーをトイレに掛け、そんな日は遠出をさけたりしています。



そんなせいか、先日ちょっとした捕り物騒ぎが私のお寺の裏でありました。晴天の昼下がりです。他所で当て逃げをした人が、逃走中に用水路沿いのフェンスをなぎ倒し(写真)、当寺とお隣の駐車場のフェンスに接触して更に逃走しました。春休み、近くで遊んでいた子供を見た職人さんが危険を感じ、車を100m程追いかけて必死で停止させてくれたそうです。子供が無事で一安心です。

警察が到着し現場検証が始まりました。被害者の一人である私も立ち会いました。加害者は初老の男性で名刺を見ると社会的にも責任のある職業の方で驚きました。しかし彼には反省も謝罪の誠意も全く無いことがその態度から読み取れました。更に「負」の要因を感じまし

た。彼は奥さんとも現在別居状態で、案の定、後に「雲隠れ」状態になりました。

「負」をたくさん背負った人からは、破損したものを修理してもらわない方が良いのです。いくら保険会社が間に入るといえ、その際に「お金が」動きます。昔の人はお金のことを「お足」と言いました。その人の「負」をお金が運び家に入るからです。いくら信号待ちをされていて追突されたとしても、長い目で見れば「修理はけっこうです」と言えることができる勇気が、自らの良い人生につながるのです。現実には、なかなか言えることではありませんけど…

使ったお金は世間を走り回り、様々な「縁」を拾い再び家に入ります。大事なもののお支払いをする際に、竹箆に1万円を敷き五の玉(銭)を乗せ弁財天さまの水で洗い清めてからお使



いになる方がおられます。そのお金が世間を走り回り、良縁だけを拾い再び家に入りますようにと願うのです。我々

僧侶も、檀家さんから布施を頂くときに「ざいほうにせ財法二施くどくむりょう 功德無量…」と偈文を唱えます。私は、「この布施が世間を走り回り良縁を拾い1.5倍になってこのお家に戻ってきますように」と願って受け取っています。大事なのは2倍の額と願わないことです。弁財天さまへ行くことができなくても、普段のお買い物の際にできるだけおつりが無いよう、お札の向き等を整え、笑顔で丁寧にお支払するよう心掛けてみましょう。お足が幸せを運びます。 俊徳丸